

平成29年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



平成30年5月15日
NPO法人北海道遺産協議会

平成29年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計5件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	天塩川流域	ダウン・ザ・テッシェーオーペツ実行委員会	北海道遺産 天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシェーオーペツ2017」	200,000
2	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市	一般財団法人道南歴史文化振興財団	南かやべ(函館東海岸)の豊かな恵みを未来へつなぐ縄文エコツーリズム～プロモーション映像づくり	300,000
3	霧多布湿原	浜中町	認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト	トラストの保全する森と散策路の整備事業	300,000
4	石狩川	石狩川流域	オアシスパークからゆめまちづくり協議会	石狩川砂川遊水地管理棟知名度アッププロジェクト	150,000
5	小樽港と防波堤	小樽市	ウェルカム・ガーデン	ウェルカム・ガーデンから見渡す北防波堤と広井勇の功績を伝える紙芝居のDVD化	150,000

1.北海道遺産 天塩川カヌーツーリング大会 「ダウン・ザ・テッシ-オー・ペツ2017」

- 実施主体：ダウン・ザ・テッシ-オー・ペツ実行委員会（事務局・美深町役場内）
- 実施団体URL：<https://mint.hokkai.net/~hccc/dt01>
（ダウン・ザ・テッシ-オー・ペツHP）
- 助成額：200,000円

ー活動内容ー

●カヌーツーリング大会の開催を通じて、北海道遺産「天塩川」の大自然と触れ合い、河川景観や環境保全に対する関心を高めてもらう。

●カヌーツーリング大会前、大会期間中に清掃、点検活動を展開し、参加者全員がツーリング中にゴミ拾い等のクリーンリバーに参加した。

- 事前清掃活動 6月18日、7月2日 ○点検活動 7月9日、7月15日
- 大会期間中 7月16日～17日



遺産の名称：
「天塩川」（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ(アイヌ語で「梁」(やな)の意味)が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることが出来る日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

2.南かやべ(函館東海岸)の豊かな恵みを未来へつなぐ 縄文エコツーリズム～プロモーション映像づくり

■ 実施主体：一般財団法人道南歴史文化振興財団（函館市）

■ 実施団体URL：<http://dounan-rekibun.jp/>
（人道南歴史文化振興財団HP）

■ 助成額：300,000円

－活動内容－

●自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かし、地域経済の波及効果を図ることで、持続可能な地域資源の保全を目指した観光の考え方であるエコツーリズム。この一つの核として北の縄文文化を置き、函館市南茅部地区の地域づくりの資源として活用するため縄文エコツーリズムの開発に資するプロモーション映像（予告編）の作成を行った。地域資源のベースである南かやべ（函館東海岸）の豊かな恵みや縄文に関する資源について、地域住民からの聞き取りなどで情報を拾い上げた。編集の行程は主に北海道教育大生が行った。

●縄文文化をより多くの人々に身近に感じ興味を持ってもらうため、地元団体（北の縄文クラブ、南かやべ森と海の会）や南茅部高校の協力を得ながら「南みかやべ縄文まつり」を開催した。



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期(7000年前)～中期(6000～4000年前)の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

3.トラストの保全する森と散策路の整備事業

- 実施主体：認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト
(浜中町)
- 実施団体URL：<http://www.kiritappu.or.jp/>
(霧多布湿原ナショナルトラストHP)
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 団体が保全している森林は、野鳥やほ乳類が多く暮らし、樹洞を利用する森の生き物もいる。木材利用を目的としていない森なので、散策路沿いを中心に最低限の手入れを行った。
- 協力企業のボランティアの皆様とともに、散策路沿いの枝払いとそれらの集積、道標づくりを行なった。切り落とした枝や細木を散策路の両脇に並べ、落とした枝を鉋で削った手製の杭を打ち込んで押さえた。次期以降は、集積している間伐材や枝葉をチップにし、散策路に撒くことも計画している。



遺産の名称：
「霧多布湿原」 (浜中町)



湿原景観を構成するすべての要素が一望できる学術的にも貴重な湿原。一部は「霧多布湿原泥炭地形形成植物群落」として大正11年に天然記念物に指定され、数百種の高山植物が自生している。春から秋にかけて咲く花々の美しさを楽しみ、タンチョウや白鳥など百種の野鳥も観察できる。地域では湿原保全のナショナルトラスト活動が積極的に展開されている。

4.石狩川砂川遊水地管理棟知名度アッププロジェクト

- 実施主体：オアシスパークからゆめまちづくり協議会（砂川市）
- 助成額：150,000円

一活動内容一

- 砂川遊水地管理棟の知名度アップの為に、8月4日（金）に開催された、砂川市納涼花火大会に併せて、施設を夜間開放し市民の交流会を実施した。当日、花火大会が実施されたこともあり、18：30～21：00の間のピーク時には580人以上が来館した。
- 11月5日（日）には管理棟を利用したフリーマーケットを開催。多くの一般市民が足を運び、管理棟への親しみ感じてもらう取組ができた。



遺産の名称：
「石狩川」（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

5. ウェルカム・ガーデンから見渡す北防波堤と 広井勇の功績を伝える紙芝居のDVD化

■ 実施主体：ウェルカム・ガーデン（小樽市）

■ 助成額：150,000円

一活動内容一

● 北防波堤を見渡すことができる、小樽港のフェリーターミナル横のウェルカムガーデンの花壇の整備活動を実施。

● 市民に北防波堤と廣井勇の功績を伝えるため、廣井勇と北防波堤を題材にした紙芝居を映像化してDVDを制作した。

● 制作したDVDは、今後、市民活動の場で上映会を行ったり、小学校などで地域学習の教材に使ってもらえるよう働きかけていく。



遺産の名称：

「小樽みなとと防波堤」
(小樽市)



「港湾工学の父」廣井勇により建設された北防波堤は、セイロン（現スリランカ）のコロンボ港防波堤を参考にし、独特の傾斜ブロック工法を採用した日本初の外洋防波堤。ケーソン工法を取り入れた島防波堤とともに、今も現役で機能している。防波堤に守られた小樽のみなとは北海道移住の玄関口となり、また物流拠点、貿易港として、商都・小樽の繁栄を支えている。